

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～
【第12次緊急助成(子ども支援)】助成金申請書

【団体情報に関すること】

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

ふりがな	がくまび		
団体名称	がくまび		
代表者職名	代表	ふりがな	まつもとたつみ
		代表者氏名	松本 竜己 ⑩
ふりがな	くらしきしまびちょう		
団体住所	倉敷市真備町		
電話番号		F A X	
設立年もしくは活動年数	2019年		
スタッフ数	有給スタッフ _____ 名・無報酬スタッフ _____ 16 名・ボランティア等 _____ 名		
団体HP(あれば)			
FBページ(あれば)	がくまび		
CANPAN登録 (原則必須)	あり(星1つ) 【団体ID: 1581349543】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	副代表	ふりがな	てらおあかね
		担当者氏名	寺尾朱音
郵送物送付先住所	倉敷市真備町		
担当者電話番号 (極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

申請事業の内容

事業名 (プロジェクト名)	がくまび															
事業概要 (事業内容を簡単に)	西日本豪雨災害で被災した子どもたちのために、地域の人たちと一緒に、「楽しく学ぶ ぼくらの居場所」をつくること。															
活動(予定)期間	2020年 4月 1日 ~ 2021年 3月 31日															
活動(予定)場所	真備公民館岡田分館・菌分館															
受益者数	直接受益者 (20 名)	間接受益者 (名) ※いる場合														
事業の必要性(背景)と目指すゴール(目指す状況)																
<ul style="list-style-type: none"> ・現状や支援対象者の状況(支援対象者との現在の関係性についても必要に応じて記入) ・事業を実施することで被災地や被災者がどのような状況になることを目指すのか 																
<p>「夏休みに子どもが過ごす場所が家しかない」という保護者の声を聞いた山口大学、くらしき作陽大学、香川大学の学生が子どもの居場所づくりのための活動をはじめた。</p> <p>実際に、保護者から話を聞いたところ、被災した箭田や二万、川辺や岡田など異なる地区の保護者が、同じ悩みを抱えていることがわかった。「子どもを預ける場所がない」「みなし仮設に住んでいて、友達と遊べない」などといった悩みに応えるために、様々な地区で活動することにした。また、「土曜保育を学童では行っていない」という声も保護者の方から出たため「土曜日開催」をし、学童保育における課題もがくまびで解決できるようにしていきたい。さらに、地域の人と話してわかった「子どもに自然の中で遊んでほしい」「地域の人が集まる場所をつくりたい」などの思いを形にする場所にする。</p> <p>2019年8月の活動に続いて保護者の希望により今年度も活動継続のため申請する。</p> <p><がくまび>は、悩みを抱えている保護者や地域の人に心を寄せて、その声に最大限応える活動をする。</p> <p>その活動のなかで、子どもたちは初体験や新発見から将来につながる経験をする。そして将来、子どもたちが<がくまび>でした経験をもとに、自分の進みたい道を自分で考え、自分で選ぶことができるようになってほしい。</p>																
事業の実施内容																
<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことをいつ(回数等)やるのか 																
<p>(活動予定)</p> <p>4月1日(水)、2日(木)、4日(土) 春休みがくまび (@真備町公民館岡田分館)</p> <p>4月11日(土) 令和二年度総会</p> <p>10月31日(土) ハロウィンパーティー</p> <p>夏休み・冬休み・春休みなどの長期休暇にも引き続き真備町の公民館などの地域のコミュニティエリアで大学生と地域の方々と共にプログラムを企画し、開催日数は約30日を予定している。</p>																
事業の実施体制																
<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など 																
<p><がくまび>学生メンバー</p> <table border="0"> <tr> <td>寺尾朱音(テラオアカネ)</td> <td>くらしき作陽大学</td> <td>子ども教育学部 子ども教育学科</td> </tr> <tr> <td>福井文菜(フクイアヤナ)</td> <td>香川大学</td> <td>創造工学部 防災・危機管理コース</td> </tr> <tr> <td>魚谷祥汰(ウオタニショウタ)</td> <td>くらしき作陽大学</td> <td>子ども教育学部 子ども教育学科</td> </tr> <tr> <td>森谷奈津美(モリタニナツミ)</td> <td>くらしき作陽大学</td> <td>子ども教育学部 子ども教育学科</td> </tr> </table> <p><がくまび>連携・協力団体</p> <table border="0"> <tr> <td>ながおキッズ児童クラブ</td> <td>学童指導員派遣</td> </tr> </table>			寺尾朱音(テラオアカネ)	くらしき作陽大学	子ども教育学部 子ども教育学科	福井文菜(フクイアヤナ)	香川大学	創造工学部 防災・危機管理コース	魚谷祥汰(ウオタニショウタ)	くらしき作陽大学	子ども教育学部 子ども教育学科	森谷奈津美(モリタニナツミ)	くらしき作陽大学	子ども教育学部 子ども教育学科	ながおキッズ児童クラブ	学童指導員派遣
寺尾朱音(テラオアカネ)	くらしき作陽大学	子ども教育学部 子ども教育学科														
福井文菜(フクイアヤナ)	香川大学	創造工学部 防災・危機管理コース														
魚谷祥汰(ウオタニショウタ)	くらしき作陽大学	子ども教育学部 子ども教育学科														
森谷奈津美(モリタニナツミ)	くらしき作陽大学	子ども教育学部 子ども教育学科														
ながおキッズ児童クラブ	学童指導員派遣															

事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続する場合はその内容や展望
- ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

昨年度の活動が終わってからも、子どもや保護者、地域の人に心を寄せて、「楽しく学ぶ ぼくらの居場所」となるように活動を続けていく。被災の有無に関わらず、地域全体で子どもや保護者、地域に住むすべての人が、困ったときに頼りあい、助け合える関係を築けるような場を作っていく。

また、小学生や中学生、高校生も＜がくまび＞でプログラムの企画・運営を経験し、地域の中で自分たちにできることを考え、実行できるようにする。＜がくまび＞を受け継ぐ世代も一緒に活動することで、地域の人たちによって長く続く活動になることを目指している。今後は、地域の高齢者と共に一つの活動を行い、真備町全体の縦のつながりをより一層強くすることを目標とする。

その他

- ・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

＜がくまび＞は、立ち上げて間もない大学生主体の団体であるが、地域の声に最大限応えられるように、地域の大人と連携しながら活動している。

プログラムやワークショップでは、「まなぼう」「あそぼう」「つながろう」という思いを形にする。

初体験や新発見から自分で考え、楽しく「まなぼう」

普段経験することの少ない活動で楽しく「あそぼう」

自分の体験と自分の未来が、自分と人が楽しく「つながろう」

この思いを、子どもやプログラムやワークショップを実施する人が持って活動を続けることで、地域の人の手による＜がくまび＞を続けていきたい。

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。

実施予算 ※価格の根拠が分かるものなど必要に応じて添付ください。

※収入と支出の合計をあわせてください。

1) 本事業の収入

費 目	金 額	備 考
ももたろう基金	405340	
合 計	405340	

2) 本事業の支出

費 目 (必要な場合算出根拠)	金 額	備 考
スタッフ昼食代 (500円×5人×30日)	75000	
保険代 (参加者傷害保険、施設所有(管理)者賠償責任保険)	23840	
消耗品 (紙コップ、ペーパータオルなど)	15000	
おやつ代 (300円×20人×30日)	180000	
活動費	60000	
備品 (救急セットの補充など)	5000	募金より
事務費 (印刷代など)	3000	募金より
イベント代	50000	10月イベント代
総会 飲み物代 (150円×10人)	1500	
合 計	405340	